

## 16 動物愛護管理

動物愛護管理に関する業務は、動物愛護思想の普及や適切な飼育管理の啓発を行い、また、狂犬病の予防や、動物による危害の防止を目的としています。

「動物愛護管理」、「狂犬病予防」、「畜犬センター」業務に大別することができます。

### 1 動物愛護管理

動物の愛護及び管理に関する法律並びに横浜市動物の愛護及び管理に関する条例に基づき、動物愛護思想の普及や適切な飼育管理の啓発・指導等を図りました。

#### (1) 動物愛護普及啓発事業

動物愛護及び適切な飼育について市民の理解と関心を深めるため、飼い主をはじめ、学校、町内会等において広く市民を対象に、犬・猫のしつけ方教室の開催や啓発リーフレットの配布など普及啓発事業を実施しました。

##### 動物愛護普及啓発事業

年 度	幼稚園・保育園		学校関係		町内会等		飼い主		その他	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
平成 20 年度	6	321	63	2,457	32	321	43	1,735	48	3,821
平成 21 年度	7	766	61	2,051	19	247	82	2,253	32	1,564
平成 22 年度	5	35	45	2,088	39	1,102	180	4,434	31	6,831

#### (2) 特定動物の飼養又は保管許可

法律で定める「特定動物」を飼養又は保管する場合には、市長の許可が必要です。本市では市内 3 動物園で合計 38 種類 159 頭の特定動物が飼養されているほか、サル 5 件 9 頭、ワニ 5 件 7 匹、クマ 1 件 2 頭、ヘビ 7 件 10 匹、カメ 5 件 6 匹、大型ネコ 3 件 4 頭、ワシ 1 件 1 羽が飼育されており、飼育施設の定期的な巡回監視を行い、危害発生防止の指導等を行いました。

#### (3) 動物取扱業の登録

法律で業種単位での登録が義務づけられている動物取扱業者について、飼養施設の確認検査、指導等を実施しました。

##### 動物取扱業の届出（平成 22 年 3 月 31 日現在）

事業所数	業種別登録数					
	合計	販売	保管	貸出し	訓練	展示
1,108	1,471	464	778	50	138	41

#### (4) 犬による咬傷事故

咬傷事故の届出は 72 件ありました。咬傷犬の内訳は飼い犬 70 頭、野犬等 20 頭で、被害者は成年 72 人、未成年 20 人でした。

市民には、今後とも犬の習性等の知識普及に努めるとともに、飼い主への犬の適切な飼育管理の指導強化を推進し、犬による危害防止に努めてまいります。

犬による咬傷事故件数

	届出 咬傷事故 事件数	咬傷犬数			咬傷時の犬の管理状態				
		合計	飼い犬	野犬等	合計	係留中 犬舎等に	運動中 係留して	放し飼い	その他
平成 20 年度	85	108	88	20	108	16	43	16	33
平成 21 年度	88	104	91	13	104	8	56	16	24
平成 22 年度	72	90	70	20	90	7	50	14	19

	被害者数					犬検診数			
	合計	成年		未成年		合計	セン ター 福 祉 保 健	セン ター 畜 犬	開 業 獣 医 師
		飼 い 主	家 族 そ の 他	飼 い 主	家 族 そ の 他				
平成 20 年度	109	1	85	1	22	83	2	2	79
平成 21 年度	107	1	76	1	29	88	1	-	87
平成 22 年度	92	3	69	2	18	65	0	2	63

(5) 犬の苦情等

市民からの苦情、相談等は、横ばい傾向にありますが、依然として「ふん尿による被害」の割合が大きくなっています。そこで、各区において、飼い主への啓発キャンペーンの実施やモラル向上を訴えるプレート、チラシ等の配付等を行いました。

近年増加している多頭飼育が原因となる苦情は 65 件でした(再掲)。

また、野犬等や負傷犬の保護・収容頭数は、310 頭で、飼えなくなった犬の引取りは 79 頭でした。

犬の苦情等

		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
苦情等内容件数 (合計)		4,961	4,148	3,402
内 訳	野犬等保護	354	235	302
	放し飼い	252	264	195
	ふん尿	1,575	1,616	1,462
	鳴き声	298	374	278
	身体・器物の被害	280	193	175
	不適切な取扱い・虐待	56	66	57
	登録・注射に関すること	1,439	969	724
	その他	707	431	209
失踪犬・保護犬の問合せ		3,584	2,988	2,788
飼育相談		2,344	1,858	1,234
飼い犬引取り頭数 (合計)		110	79	72
内 訳	成犬	110	79	72
	子犬	-	-	-
措 置 件 数	指示票	207	273	213
	通知書	1	-	1
	勧告	-	-	-
	措置命令	-	-	-
	その他	4,385	3,794	3,124

(6) 猫等の苦情

猫に関する苦情の大部分は、飼い主としての自覚や責務の欠如により、不適切な飼育管理が行われることによるものです。各区では、猫に関する苦情・相談について、個々に対応するとともに、他人に迷惑を及ぼさないよう「猫の正しい飼い方」の周知徹底を図りました。

また、飼えなくなった猫、飼い主不明猫の引取り及び負傷した飼い主のわからない猫や小動物の治療を実施しました。

猫等の苦情

		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
苦情等受付件数 (合計)		3,933	2,811	2,670
内 訳	飼 い 猫	583	342	366
	飼 い 主 不 明 猫	2,594	2,409	2,224
	飼 育 動 物	58	60	73
	飼 い 主 不 明 動 物	743	-	7
苦情等内容件数 (合計)		4,928	3,788	3,442
内 訳	ふ ん 尿	1,295	1,270	1,217
	臭 気 ・ 羽 毛	382	332	335
	鳴 き 声	142	151	145
	身 体 ・ 器 物 の 被 害	332	267	217
	不 適 切 な 取 扱 い ・ 虐 待	107	115	81
	収 容 に 関 す る 相 談	1,706	1,158	1,033
	そ の 他	964	495	414
飼育相談		1,243	780	1,035
措 置 件 数	指 示 票	32	19	33
	通 知 書	-	-	-
	勸 告	-	-	-
	措 置 命 令	-	-	-
	そ の 他	4,104	3,132	2,833

猫の引取り件数

年 度	合 計	飼 い 猫	飼 い 主 不 明 猫	負傷の猫・小動物	
				重傷の猫等	中軽傷の猫等
平成 20 年度	1,967	165	1,531	237	34
平成 21 年度	1,763	127	1,362	240	34
平成 22 年度	954	135	514	263	42

(7) 猫の不妊去勢手術推進事業

猫 4,744 頭を対象に、のら猫が 1 頭当たり前期 7,000 円 (市 5,000 円、横浜市獣医師会 2,000 円)、後期 5,000 円 (市 5,000 円)、飼い猫が 1 頭当たり前期 5,000 円 (市 3,000 円、横浜市獣医師会 2,000 円)、後期 3,000 円 (市 3,000 円) を助成することによる不妊去勢手術の奨励を実施しました。その結果、のら猫 3,644 頭 (オス 1,475 頭、メス 2,169 頭)、飼い猫 1,100 頭 (オス 524 頭、メス 576

頭)の不妊去勢手術が行われました。

## 2 狂犬病予防

日本国内では昭和 32 年以来狂犬病が発生していませんが、海外では先進国を含む多くの国で狂犬病が流行しており、いつでも狂犬病が国内に侵入する可能性があることは否定できず、引き続き狂犬病に注意を払う必要があります。

狂犬病予防法に基づき、犬の飼い主は登録と年 1 回の狂犬病予防注射を行うことが義務付けられています。本市では、飼い主に対して「狂犬病予防注射のお知らせ」を送付し、飼い主の意識向上を図るとともに、市民の利便性を考慮し、定期集合注射会場を 278 か所設けました。

また、登録等推進策として、(社)横浜市獣医師会に委託し「登録等推進事業」を実施しています。

### 狂犬病予防事業実績

	登録頭数 (年度末)	登録申請数				鑑札再交付数	定期集合狂犬病 予防注射実施数	注射済票交付数		
		合計	鑑札交付数	減免措置数	無償交付数			合計	済票交付数	減免措置数
平成 20 年度	164,893	15,963	14,910	106	947	750	41,463	130,716	130,445	271
平成 21 年度	171,789	15,094	13,982	104	1,008	814	41,350	132,381	132,160	221
平成 22 年度	177,176	13,927	12,774	1048	1,045	912	39,860	132,436	132,177	259

## 3 畜犬センター

### (1) 所在地

横浜市中区かもめ町 31 番地

### (2) 沿革

昭和 25 年 8 月狂犬病予防法の施行に伴い、昭和 27 年に化製業者の所有する敷地・建物を借用し犬抑留所・磯子犬抑留所として発足した後、昭和 44 年 1 月 20 日に本市の施設として当所を設立しました。

### (3) 施設

敷地 1,680 m<sup>2</sup>

本館 207 m<sup>2</sup> (事務室・手術室・検査室・技術員室・その他)

犬舎 272.4 m<sup>2</sup> (成犬・子犬収容室 7・咬傷犬収容室 9・飼料倉庫・飼料調整室・その他)

屋外子犬犬舎 11.7 m<sup>2</sup>

処分室 125.5 m<sup>2</sup>

その他 92.6 m<sup>2</sup> (車庫・洗車場・女子更衣室)

### (4) 職員数

13 名

### (5) 業務内容

ア 狂犬病予防法、横浜市動物の愛護及び管理に関する条例並びに畜犬センター条例に基づく犬の引き取り、収容、返還、処分

イ 狂犬病の鑑定

ウ 犬の適正飼育指導及び動物愛護普及啓発

エ 子犬・成犬の不妊・去勢手術及び譲渡

- オ 狂犬病の予防接種
- カ 犬についての衛生上の試験、検査、研究及び調査

(6) 業務報告

ア 犬の保護収容

イ 犬の飼育用譲渡

飼えなくなった犬の引き取り頭数は 72 頭で、年々減少の傾向にあります。一方で、新たに犬を飼いたいという市民の要望に応えるため、犬の譲渡を行っています。

ほとんどが成犬ですが比較的人になれやすく、おとなしい健康な犬について、ある程度のしつけと不妊・去勢手術等を施し、実費で希望者に譲渡しています。

ウ 犬の適正飼育の普及啓発

しつけを施したモデル犬を用いて、新たに犬の譲渡が決定した飼い主を対象に、犬の正しいしつけ方等についての模範演技や健康管理等についての講習会を行っています。

エ 狂犬病予防注射

保護収容された犬の返還時に飼い主の申請により、77 頭に接種しました。

オ 返還頭数

保護収容された犬は、374 頭で昨年より 15 頭減少しています。そのうち、202 頭が飼い主のもとへ返還されました。

業務実績

		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
保護・収容総数		491	389	374
	野犬等	34	20	17
	飼い主不明犬	341	290	283
	飼えなくなった犬	110	79	72
	負傷疾病犬	6	0	2
返還数		238	218	202
返還率*		62.5%	70.3%	66.9%
譲渡数		65	67	67
	子犬	8	9	0
	成犬	57	58	67
不妊・ 去勢手術	オス	27	23	33
	メス	19	20	15
安楽死処分数		188	104	96
狂犬病予防注射		76	67	77
咬傷犬鑑定収容数		4	0	2
犬のしつけ方の普及啓発回数		108	104	108
*返還率＝返還数／（保護・収容総数－飼えなくなった犬）				